

若者の介護への参入・定着支援 KAIGO MY PROJECT導入のご提案

株式会社Join for Kaigo

秋本可愛

2015年8月20日

自己紹介



akimoto

kaai

秋本 可愛

平成2年生まれ

専修大学商学部卒業

株式会社Join for Kaigo設立

介護現場歴2年

納棺士3級

1. 介護に志を持つ若手のコミュニティ運営



超高齢社会を創造的に生きる次世代リーダーのコミュニティ

HEISEI KAIGO LEADERS

event/学び場/[PRESENT]

2025年、欲しい未来のために私たちは何を学び、どんな力をつけなければならないのか？という原点から考えて仲間とともにつくる学びの場

介護の専門知識・スキル

+

?

リーダー・マネジメント層の不足

人材不足

勤続年数の短さ

地域包括ケアシステム推進

求められる多職種連携

多様化する高齢者のニーズ

2025年問題

低賃金

event/学び場/[PRESENT]

専門知識・スキル以外の学びの場を。



●武藤真祐

現場からイノベーションは起きるのか？(リーダーシップ・デザインシンキング)

●志村真介

ダイアログで介護は変わるのか？(ダイアログ)

●掘田聡子

地域包括ケアシステムの未来のカタチ～活躍できる人材は？～(仮題)

event/学び場/[PRESENT]

参加者は学生・介護士・看護師・医師・経営者・人事など様々。異業種も。





concept: 未来の介護食



concept: 対話を生む食事

2. 若者が自分らしく生き生きと働ける環境づくり



超高齢社会の現状に不満を持っている人や、
何かをやりたいと思っている人が想いをカタチにし、社会に貢献するプロジェクト

KAIGO MY PROJECT

KAIGO MY PROJECTとは

- KAIGO MY PROJECTは、「マイ・プロジェクト(通称:マイプロ)」というプロジェクト型の教育手法をベースに、超高齢社会下における問題に課題意識を持った人や何か挑戦したいという20代を主に対象としたプログラムです。
- 2015年1月からスタートし、学生、介護現場職員、管理者、看護師、医師、介護周辺事業者、障がい者施設職員などが参加しています。
- KAIGO MY PROJECTでは20人前後の同じ仲間と3ヶ月、相互にプロジェクトを支援しながら進めます。



マイ・プロジェクト(マイプロ)とは

- 「マイプロジェクト(通称、マイプロ)」は、慶応SFC(井上英之ゼミ)で開発された、ソーシャルイノベーション創出の手法です。自分自身が感じている課題に対して、ジブンゴトとして取り組みながら、社会への関心やアントレプレナーシップを高めていく教育手法として注目を集めています。

一般論や「べき」論による課題設定ではなく、個人の経験・原体験から感じる身の回りに何気ない課題や、社会に対するちょっとした違和感・疑問を出発点に、等身大で取り組めるプロジェクトを立案し、その実行を通して、学習者個々人の成長をチームで相互支援するものです。

- 起業家育成、初年時教育、チームビルディングまちづくり、被災地支援などで活用されています。(慶応SFC、BBT大学、早稲田大学、高知大学、埼玉工業大学、NPO法人ETIC、NPO法人ブラストビート、greenz.jpなどで展開)



導入実績



学卒新卒者採用 介護事業運営企業向け

企業の採用選考参加者向けのプログラムや「介護」を1つの就職の選択肢として考える学生向けのインターンシッププログラムとして導入。



大学・専門学校での授業にて

1年生の授業2コマ(3時間)にてワークを実施したり、1コマ(1時間半)秋本の講演の中でワークのベースを取り入れるスタイルでの授業を実施。学生の想いを引き出したり、ともに学ぶ学生同士の関係構築に繋がる。



新設の介護事業者の介護スタッフ向け

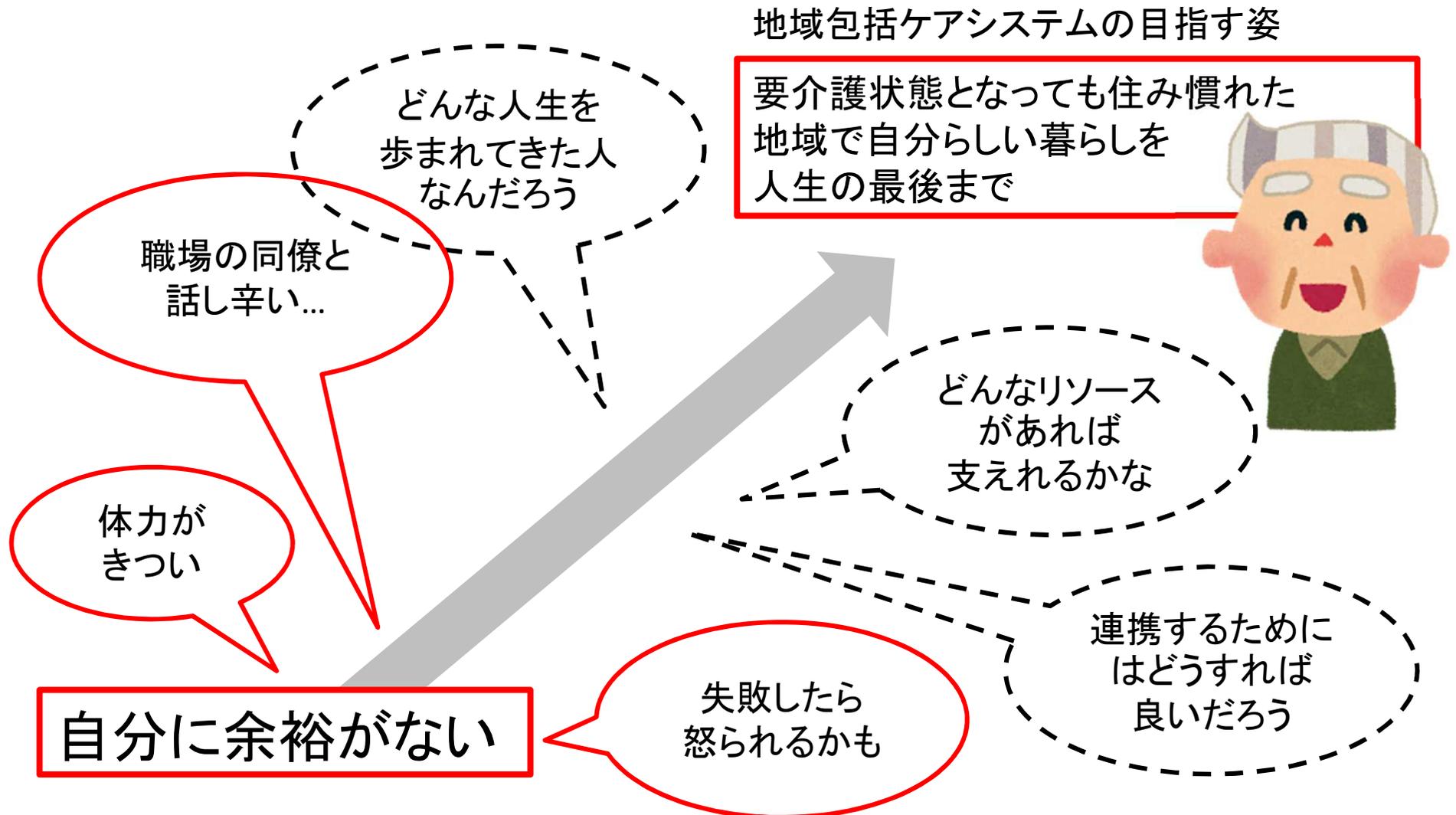
新設の施設採用者対象にリーダーシップ研修・コンセプト作りのワークを実施。その中で1人1人の想いを引き出すことと、新しいメンバーの関係構築を目的にKAIGO MY PROJECTのワークを実施。

本格スタートから4ヶ月 現在ワーク体験者300名突破！




なぜ若者が自分らしく
生き生きと働ける環境が必要なのか？

自分らしく生き生きと働ける環境がなぜ必要か





自分らしく生き生きと働ける環境がなぜ必要か

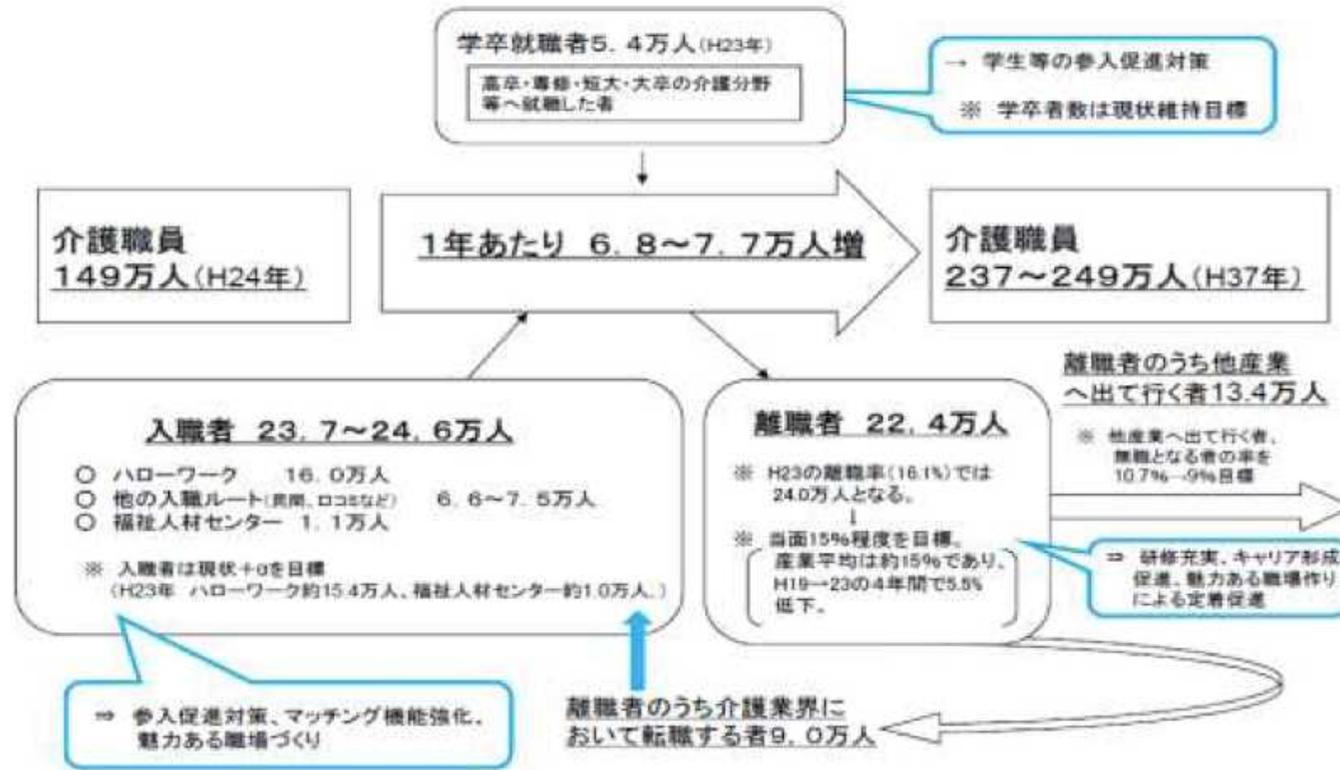
高齢者の自分らしい暮らしを考え、
真に貢献する以前に
自分のことで精一杯

真に相手に貢献するためには
心の余裕が必要



なぜ若者なのか？

離職の現状

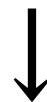


離職者のうち3年未満が73.2%、1年未満が3割越え

従事者の年齢が高いほど離職率は低い

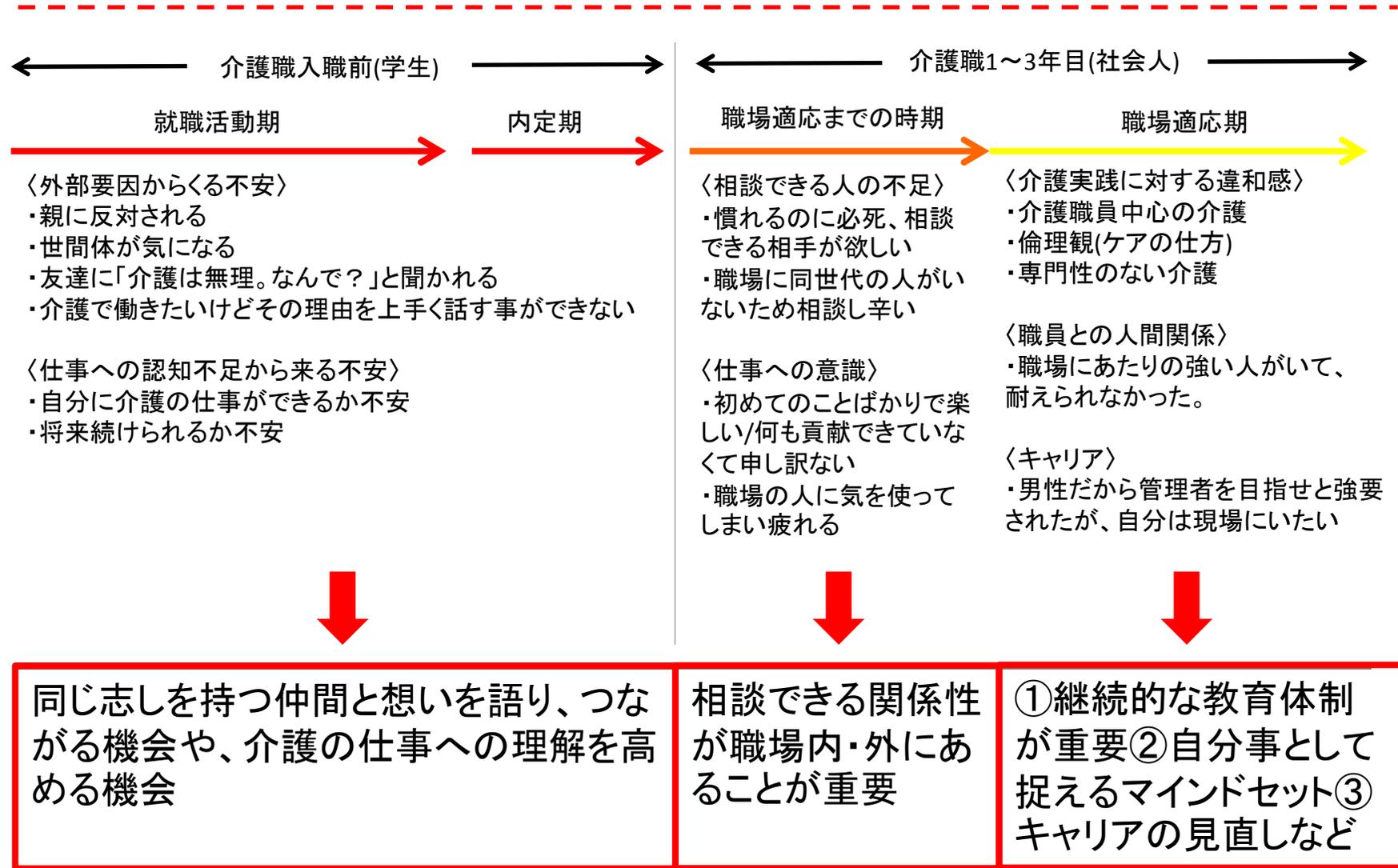



若者が働きたい
働き続けたいと思う職場

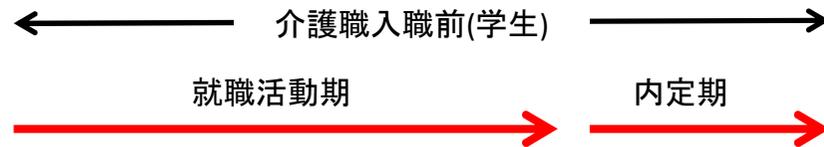


良質な介護サービス提供へ

若者の入職を阻害する背景と離職理由



入職を促進した事例



- 〈外部要因からくる不安〉
- ・親に反対される
 - ・世間体が気になる
 - ・友達に「介護は無理。なんで?」と聞かれる
 - ・介護で働きたいけどその理由を上手く話す事ができない

- 〈仕事への認知不足から来る不安〉
- ・自分に介護の仕事ができるか不安
 - ・将来続けられるか不安



同じ志しを持つ仲間と想いを語り、つながる機会や、介護の仕事への理解を高める機会

【事例】

学卒新卒者採用 介護事業運営企業様 選考中の学生向けにプログラム導入

〈人事担当者の話〉

プログラムを受けた後、最終面談をした20名のうち3名は、プログラムに参加してうちで働くことを決めた

〈働くことを決めた背景〉

- ・自分の介護への思いに自信を持つ事ができ、介護で働くことを決めた。
- ・一緒にワークをした参加者に「一緒に働きたい」と言ってもらえて、ここで働くことを決めた。



入職を促進した事例(2)

KAIGO MY PROJECT1期参加者 女性 **事務職から介護職へ転職**

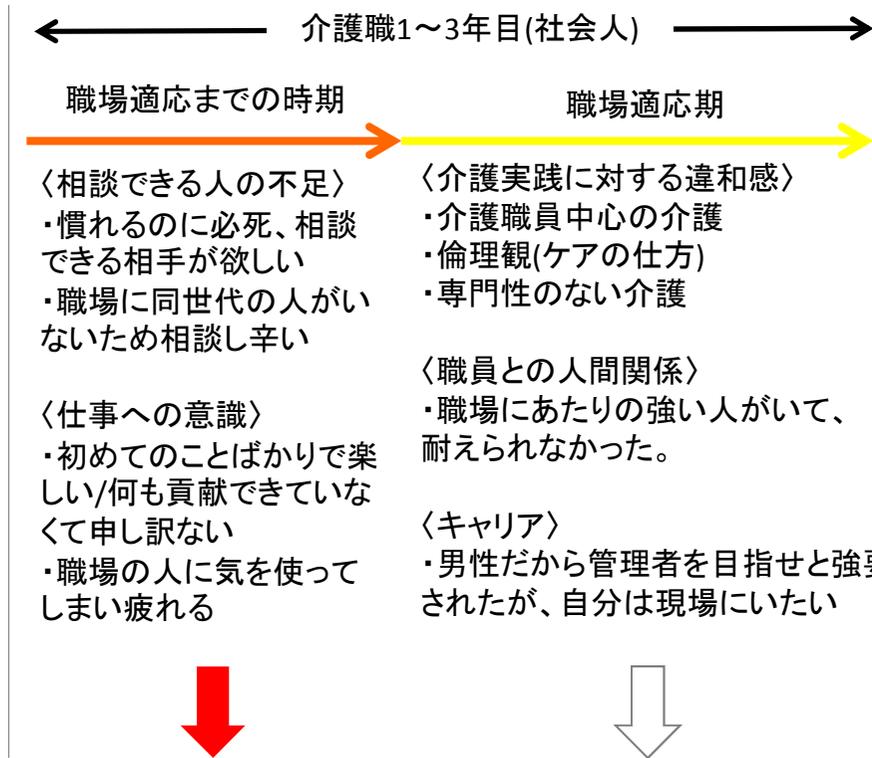
■参加前

- 職員が日々の仕事の業務に追われて、ご利用者様のリハビリや談笑等が後回しとなり、日を重ねる毎にご利用者様のADLが落ちるのを目の当たりする事がとても嫌だった。
- 同僚・上司・私も含めて、身体に介護負担が来て腰を悪くしたり、夜勤業務やご利用者様からの粗暴行為や精神的ストレスでうつ状態になってしまった仲間の介護職員の姿に、将来への不安は募るばかりだった。
- 介護業界のイメージは私の中でいい印象は無く、仕事に「誇り」を持てなかった。

■参加後

- KAIGO MY PROJECTに参加して、自分の過去や自分自身を見つめる中で、自分の性質が福祉そのものにあっていることや、人の傍でお世話をすることに、とても喜びを感じていたことを思い出した。
- 「私がやりたい職業って何だろう？」って自分に問い続け、働くのなら自分のやりたいこと、楽しいことや何か将来に繋がるものが良いなと思いました。辛くてもやり甲斐のあることにしようと思い、自分自身を見つめていくと、私にとって「介護現場で働くこと」はやり甲斐のある仕事であることに気づいた。

相談できる関係づくり



【事例】

2015年1月より始めたKAIGO MY PROJECT
 トライアルメンバー

〈プログラム終了後〉

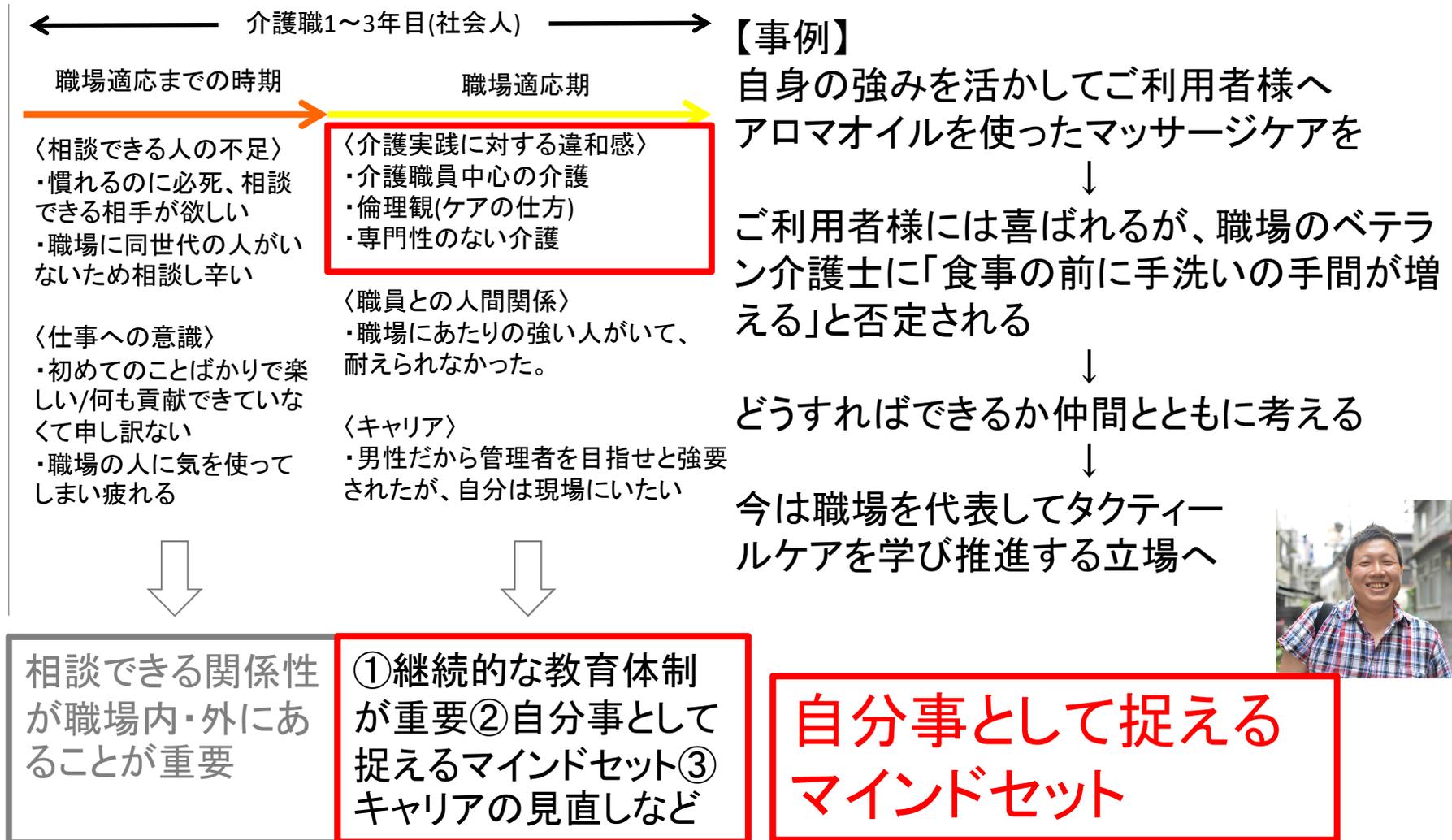
- ・ 現在も定期的に会ったり、Facebookグループにてプロジェクトの進捗報告やフォローが行われている
- ・ KAIGO MY PROJECTの現2期メンバーや体験イベントのサポート役に
- ・ KAIGO MY PROJECTで行ったワークを自社内で実施

相談できる関係性が職場内・外にあることが重要

①継続的な教育体制が重要②自分事として捉えるマインドセット③キャリアの見直しなど

継続的な信頼できる仲間とのつながり

違和感や不満から一歩踏み出す力を養う





若者の介護への参入・定着支援への一歩

若者が自分の可能性に気付き
発揮できる環境をつくること